



「心の時代」と学術

—若手研究者とともに考える社会の不安と喜び—

平成24年6月23日(土)

13時00分～17時30分

日本学術会議講堂

(東京都港区六本木7-22-34)

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5番出口

参加費無料・事前の参加申込不要(定員300名)

超高齢社会や金融問題など、私たちが強い不安を抱える社会問題はたくさんあります。今や、物質ばかりを追求するのではなく、心の問題にあらゆる学術分野が取り組むべき「心の時代」に突入したとも言えます。今回、様々な分野の若手研究者が、自身の研究分野から垣間見える心の問題を捉え、現代社会の内包する様々な問題を共有し、議論を展開するシンポジウムを行います。

プログラム

(本シンポジウムの登壇者は、全て日本学術会議若手アカデミー委員会の委員です。)

① 開会挨拶：13:00～13:10

駒井章治(奈良先端科学技術大学院バイオサイエンス研究科准教授)

② 講演：13:10～15:20

司会：川畑秀明(慶應義塾大学文学部准教授)

講演①：高橋良和(京都大学防災研究所准教授)

「新しい土木はどのように心と対峙するか」

「土木事業は社会基盤を整備することにより、国民の生活に資すること」を目的としているのに、今や国民から支持されているとは言えない。社会の物質的だけでなく精神的豊かさを支えるため、新しい土木は何を目指すべきか？ここでは「公共」と「理念」を「土木における心」と捉え、議論したい。

講演②：谷口尚子(東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授)

「民主主義の『理想』と『現実』」

民主主義国家は人々の「自由と平等」を希求する心によって支えられるが、近年ではそれゆえに社会全体の問題解決が難しくなっている面もある。ヨーロッパでは緊縮財政政策が有権者に支持されず、財政破綻のリスクが高まっている。日本の基地問題や原発問題などにおいては、その負担の分担が焦点となっている。民主主義は我々の社会の原理として今後も機能し得るのか、どのような「リペアメント(修繕)」が必要か、考察したい。

講演③：田中由浩(名古屋工業大学(おもひ領域)助教)

「ロボットの役割と人との調和」

ロボット、広く言えば機械は、人と密接に関わりを持ってきた。その関係は、人に代わるモノ、人を助けるモノ、人と共存するモノ、多様になり、技術的課題と同時に、人の心との対峙が重要な側面をもちつつある。本講演で、ロボットがもたらした/もたらす生活と人の心との関わりを考察したい。

③ パネルディスカッション：15:30～16:55

④ 閉会挨拶：16:55～17:00

狩野光伸(東京大学大学院医学研究科講師)

⑤ ポストディスカッション：17:00～17:30

(休憩スペースにて行います)



ポール・セザンヌ『青い花瓶』(1889-1890)
油彩、キャンバス 61×50cm オルセー美術館